

学位論文審査の要旨

学位申請者	高橋 美香【論文博士】 【比較文化学専攻 平成4年度生】 (平成7年3月31日 単位修得退学)	要 旨
論文題目	増賀説話の形成と展開	<p>本論文は、奇行と過激で知られながらも一方では遁世者の理想像とされる多武峯（現奈良県桜井市の談山神社）増賀の説話の形成・展開・変容を探ったものである。</p> <p>第一章では、新資料として宮内庁書陵部所蔵の「春夜神記」が取り上げられ、辞世和歌および臨終の様子と改葬をめぐる奇跡譚を記した注進状などから多武峯では増賀が法華経持経者として往生したと理解され、後の往生伝に影響を与えたとされる。第二章では、院政期から室町期にかけての増賀説話が考察の対象とされて増賀の人物像の形成と変容が検討され、増賀の臨終往生譚の伝承者として大江匡房舅の素意に注目すべきこと、不動経の享受が説話の新たな展開をもたらしたこと、さらに室町期には高僧と母の結びつきの重視によって変容を遂げることなどが解明される。第三章では、中世末期から近世前期にかけて作成された講式、絵巻、肖像画などの文物を手がかりとして増賀説話の展開が探られ、増賀の奇行譚や人物像の変容は中世の終結ともに終息し、高僧としてのイメージの定着が窺えると結論される。</p> <p>審査の過程ではいくつか問題が指摘された。研究テーマに即した先行研究の整理・把握が不十分であること、論文全体の結論がややまとまりに欠けること、一部の先行研究の理解の仕方や取り上げ方に問題あること、全編にわたって記述に混乱が散見されること、文献の引用形式の不備・不統一、などである。審査委員会の指摘に応じ、申請者は複数回にわたって論文の修正・補訂を行い、満足すべき水準に仕上げた。</p> <p>本研究の特徴のひとつは、新出資料への積極的な取り組みと、文献以外の資料への着目である。そのことによって増賀説話研究に新たな問題や論点を追加することになったと評価できよう。</p> <p>公開発表会に先だって口頭試問による外国語の能力の確認、および最終試験を行い、申請者が十分な能力と学力を持つことを確認した。公開発表会での応答は適切に行われ、その後の最終審査会において博士論文としての水準に達していると判断した。</p> <p>以上により、博士（人文科学）Ph.D. in Japanese Literature の学位の授与について、合格とした。</p>
審査委員	(主査) 教授 安田 次郎 教授 浅田 徹 准教授 松岡 智之 教授 古瀬 奈津子 教授 宮内 貴久	
インターネット 公表	○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ ⊖ ） ○ 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている ⊕. 学術ジャーナルへ掲載されている、 もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	